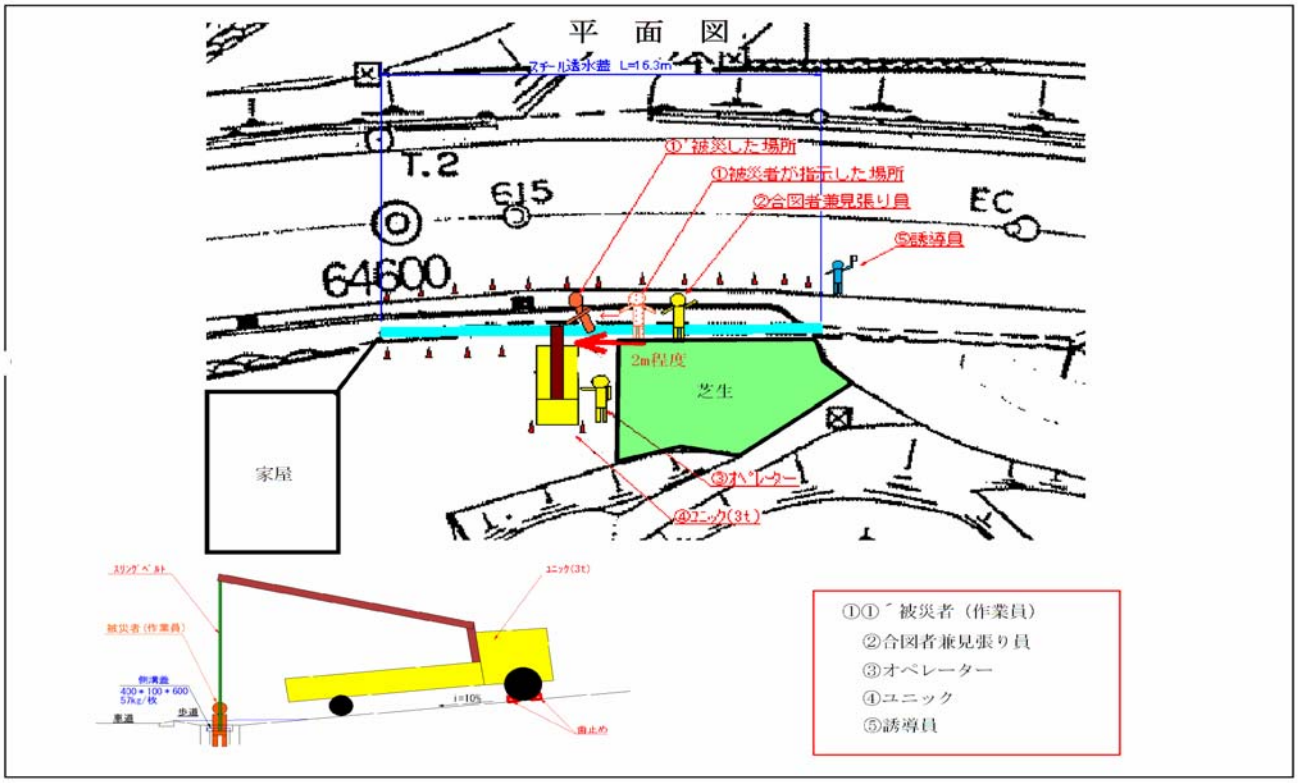
5	事故種類	労働災害	発生日時	平成23年6月1日　10時40分		事故当事者	元請け
	事故区分	労働災害	年齢性別	47歳男性	職種	普通作業員	
	被災程度（全治）	鼻骨骨折　1週間の安静					
	事故概要	歩道内側での側溝改造作業時、ユニック車を利用し作業員2名で側溝蓋を吊り上げていたところ、上がらなかったために緩めるように指示したが、緩まない状況で側溝蓋付近に近付いた時に側溝蓋が作業員の鼻を下から上にこすり上げるように接触し被災した。当時、被災作業員の顔の位置は、上方から覗き込んだ状態であった。					
	事故原因等	・ユニック車のワイヤーが緩まない状況で側溝蓋付近に近付いた。 ・作業員が合図を確認せずに側溝内に入った。					
	改善策等	・ユニック車の吊り荷付近に立ち入る際には、ワイヤーがフリーであることを確認し立ち入る。 ・月１回の安全訓練において合図方法の教育訓練を実施する。					
	類似工事（他工事）へ活用できる対策等	・ユニック車の吊り荷付近に立ち入る際には、ワイヤーがフリーであることを確認し立ち入る。					

事故状況図



6	事故種類	労働災害	発生日時	平成23年6月15日 14時10分頃		事故当事者	元請け
	事故区分	労働災害	年齢性別	58歳　女性	職種	作業員	
	被災程度（全治）	左手挫滅創、関節橈骨動脈断裂。橈骨神経、正中神経断裂。長母脂屈筋腱、橈側手根屈筋腱、浅指屈筋、腕橈骨筋断裂。約2～3ヶ月の入院加療及び長期の外来加療、リハビリ加療。					
	事故概要	歩道部植栽帯の除草を肩掛式草刈機で作業中、切り残しがあったため、草刈機のアクセルを戻し（アイドリング状態）、飛散防止ネットを持った被災者に進行方向から後退するよう促したところ、被災者は歩車道境界の縁石につまづき草刈機を持った従事者の方へよろめいてきた。草刈機従事者は、危険回避のため、とっさに体勢を低くして草刈機を横方向へ引いたが、同時に被災が転倒する際に地面に手をつこうと伸ばした左手が出てきたため、惰性で回転している刃に接触し負傷した。				
	事故原因等	・縁石に近接した箇所において、漫然とした行動で足下確認がおろそかであったため縁石に足を取られて転倒した。					
	改善策等	・現場を十分確認し、足下確認の徹底（当日に作業員全員で作業現場の確認）。 ・セーフィティコーンや防護ネットに「足下確認」「段差あり」等の注意喚起表示を行う。					
	類似工事（他工事）へ活用できる対策等	・セーフィティコーンや防護ネットに「足下確認」「段差あり」等の注意喚起表示を行う。					

事故状況図

作業中

移動中

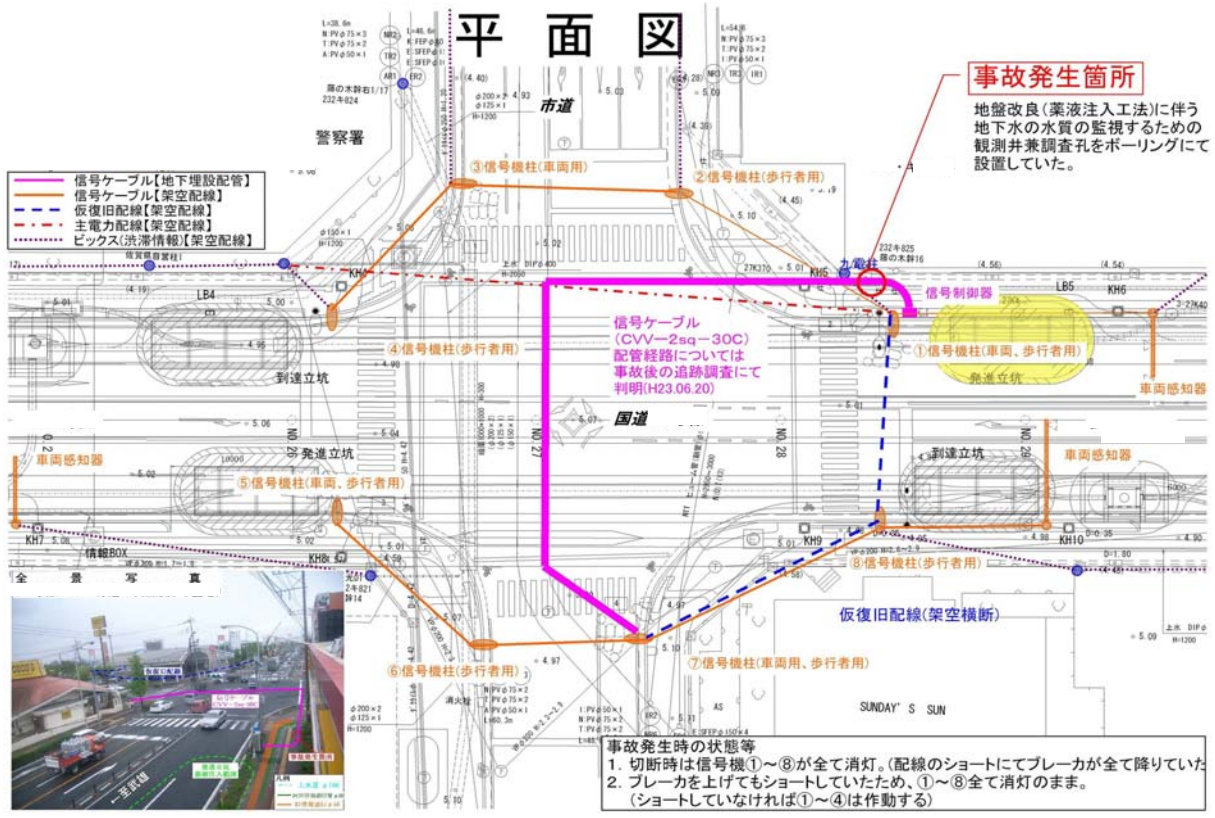
事故発生

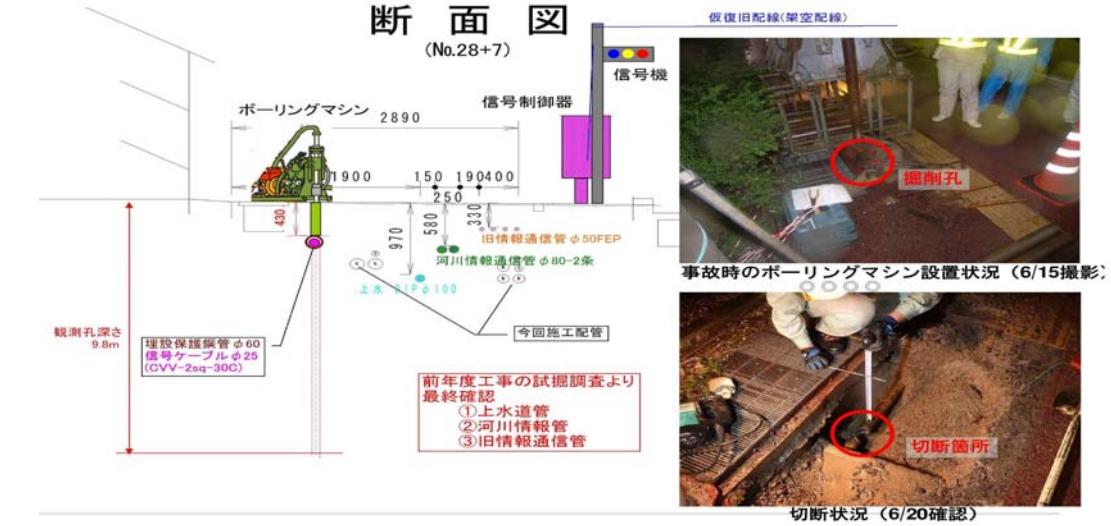
改善策

飛散防止ネット【足下注意】　カラーコーン設置状況

7	事故種類	一般事故	発生日時	平成23年 6月15日 22時30分		事故当事者	1次下請け
	事故区分	公衆災害	年齢性別	ー	職種	ー	
	被災程度（全治）	埋設信号ケーブルの切断					
	事故概要	薬液注入工に伴う事前調査作業として観測孔ボーリングを施工していたところ、地下埋設物件調査時に把握していなかった埋設信号ケーブルを切断した。					
	事故原因等	・地下埋設物の資料収集時に、所轄警察署窓口で図面と写真の説明により地下埋設物の確認を行い、架空にて接続されているので、「地下埋設物無し」との回答を受けていた。 ・事故箇所が掘削影響範囲となることから探査機による探査、事故箇所前後の試掘を行ったが、切断した埋設物が確認できなかった。（探査機による探査では、側溝の鉄筋に反応して地下埋設物を確認できなかった） ・現地調査において、事故箇所近くに信号制御器や信号機があったが、架空線への配線を確認していた。					
	改善策等	・地下埋設物件を確認する既存資料の記載情報などはあくまでも目安であり、常に地下埋設物がどこにでもあるかもしれないという考えを念頭に施工する。 ・信号機柱及び信号制御器の隣接作業においては、管理者（県警）及び管理者が指定する専門業者に現場臨場での地下埋設物有無の確認と共に配線経路（ルート）を明確にする。 ・配線経路（ルート）が不明な場合については、信号機柱及び信号制御器等にある配線に直接、探査機の端子を接続する方式にて埋設信号ケーブルの位置を確認する。 ・類似する埋設管についても同様に調査をするものとする。					
	類似工事（他工事）へ活用できる対策等	・上記の改善策等に同じ。					

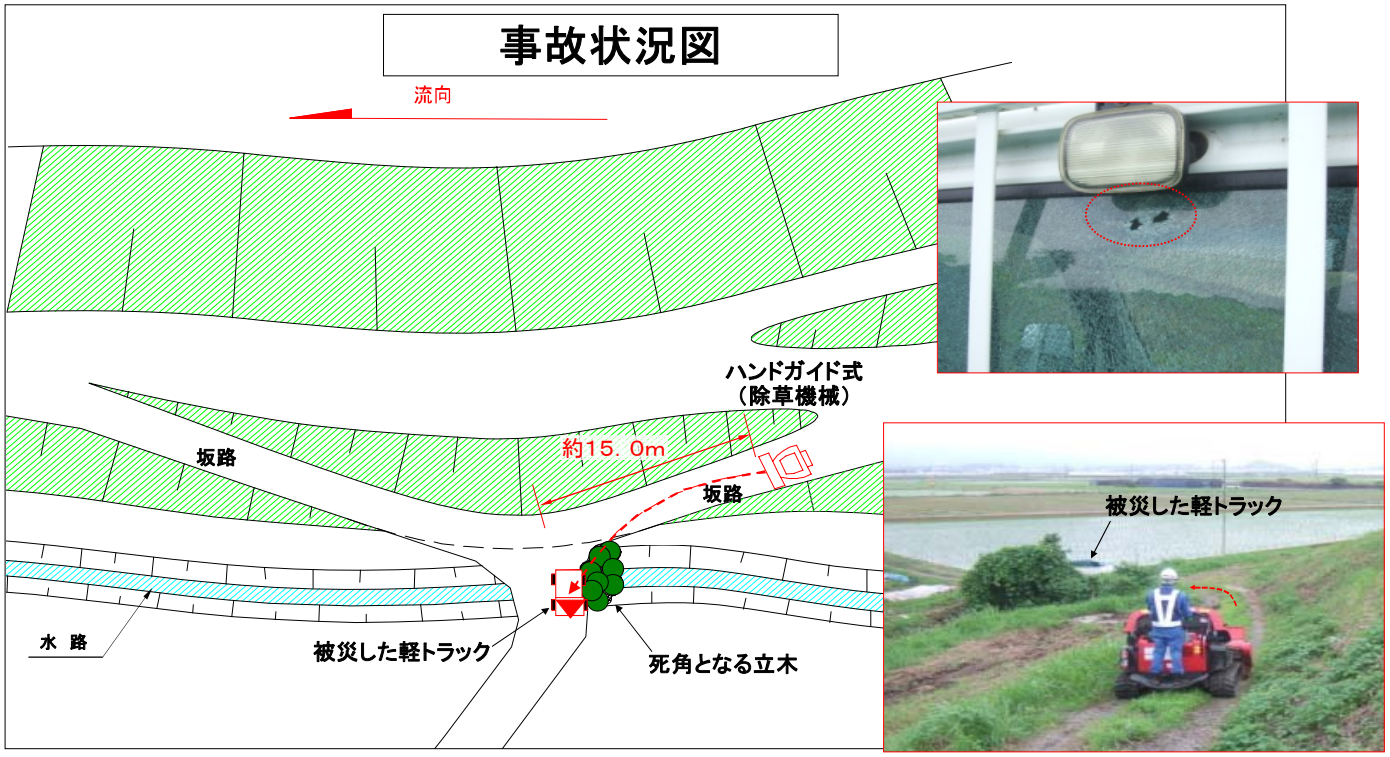
事故状況図





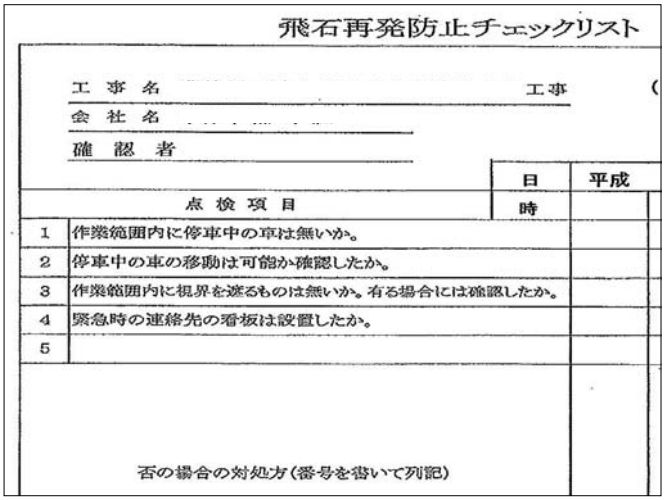
8	事故種類	一般事故	発生日時	平成23年6月17日午前11時頃		事故当事者	1次下請け
	事故区分	公衆災害	年齢性別	―	職種	―	
	被災程度（全治）	一般車両［軽トラック］の後部窓ガラス損傷					
	事故概要	堤防法面除草において、川裏の坂路（砂利坂路）をハンドガイド（飛び石対策用チェーン装備）にて下流側向きに除草作業を行っていた際、草と一緒に路面を削ったために坂路上の砂利が飛び、除草箇所より約15m先の植生の陰に駐車していた一般車両（軽トラック：乗員なし）の後部窓ガラス（900×300）を損傷させた。					
	事故原因等	・作業箇所より死角となる箇所に被災車両が駐車していたことに作業員が気づかなかった。 ・飛び石対策用チェーン装備のハンドガイドで作業を行っていたが、現場条件（砂利道）に応じた機械選定等への配慮が不足していた。					
	改善策等	・現場代理人、主任技術者は停車中の車などがないかを確認する。又、飛石再発防止のためのチェック表を作成し、現場作業責任者は、作業前、作業終了時に周辺状況・異常等の有無を確認及び記録する。 ・視線を遮る障害物の箇所での作業は、作業直前に作業者が機械から降りて周辺の安全を再度確認する。 ・砂利坂路での除草は肩掛式除草機械（飛び石防止対策装置付または揺動式）にて実施する。 ・除草の進行方向は、死角となりえるものから離れる方向で作業を行う。					
	類似工事（他工事）へ活用できる対策等	・視線を遮る障害物の箇所での作業は、作業直前に作業者が機械から降りて周辺の安全を再度確認する。 ・作業機械の選定については、現場条件を踏まえ検討する。					

事故状況図



改善策

目的物から離れる方向で進行作業を行う。



飛石再発防止チェックリスト

工事名　　工事（

会社名

確認者

	点検項目	日時	平成
1	作業範囲内に停車中の車は無いか。		
2	停車中の車の移動は可能か確認したか。		
3	作業範囲内に視界を遮るものは無いか。有る場合には確認したか。		
4	緊急時の連絡先の看板は設置したか。		
5			

否の場合の対処方（番号を書いて列記）

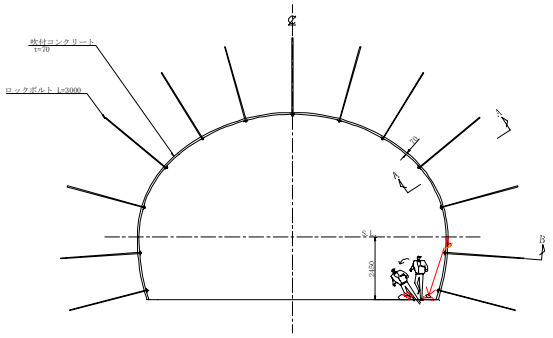
飛石再発防止のためのチェック表を作成し、現場作業責任者は、作業前、作業終了時に周辺状況・異常等の有無を確認及び記録する。

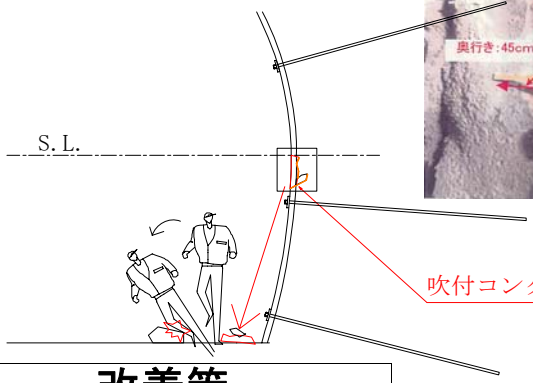
9	事故種類	労働災害	発生日時	平成23年06月21日 18時20分		事故当事者	1次下請け
	事故区分	労働災害	年齢性別	34歳男性	職種	トンネル特殊工	
	被災程度（全治）	右頸骨骨幹部・右腓骨骨折(全治7週間)					
	事故概要	トンネル吹付けコンクリートの施工において、上半2次吹付けコンクリート完了後、右側下半の吹付けコンクリートを実施した。その後、左側下半の吹付けコンクリート作業に移行した際、被災者は右側下半に設置していた定規を人力で取り外し、その場で定規に付着したコンクリートを清掃していたところ、下半側部に吹き付けたコンクリートが剥落したため、被災者はとっさに逃げようとした。その際、足元の石に足がひっかかり、転倒したはずみで負傷した。					
	事故原因等	・施工計画書に1回の吹付厚は10cm程度としているにもかかわらず、剥落した箇所は奥行き45cmの吹付厚がある箇所を1回の吹き付けで仕上げた。 ・吹付直後の下半直下で、下半定規を人力で取り外し、下半直下で下半定規の清掃をしていた。					
	改善策等	①下半においても吹付け厚が10cm以上の箇所は1層10cm程度で複数層に分けて吹き付ける。 ②切羽から離れた安全な位置で下半定規の清掃作業をする。					
	類似工事（他工事）へ活用できる対策等	・上記改善策に同じ。					

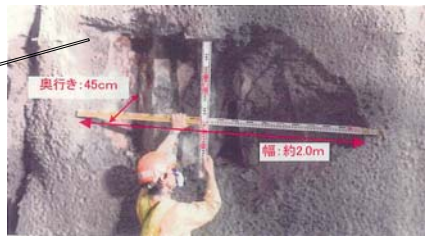
事故状況図

断面図 (パターン CⅡ-b-H)

終点側（切羽）に向かって







改善策

①下半定規をバックホウで取り外す。

②切羽から離れた安全な位置で
下半定規の清掃作業をする。

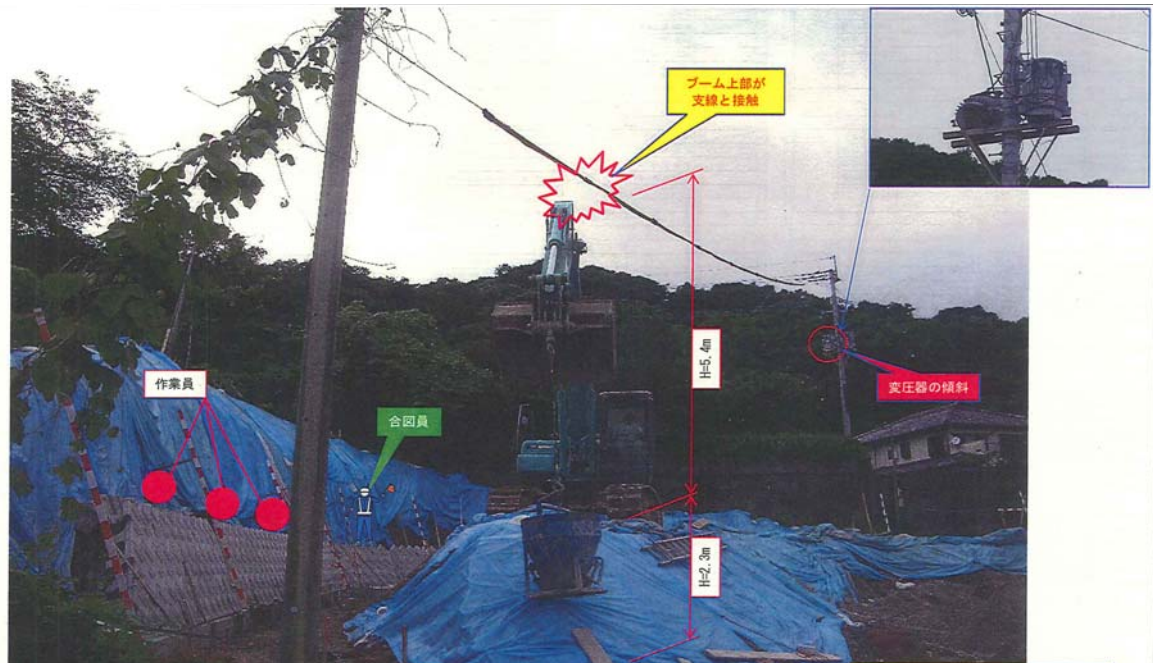
③下半においても吹付け厚が厚くなる箇所は
1層10cm程度で複数層に分けて吹き付ける。

④作業足元の支障となる岩塊は取り除く。

10	事故種類	一般事故	発生日時	平成23年6月29日16時00分		事故当事者	2次下請け
	事故区分	公衆災害	年齢性別	ー	職種	ー	
	被災程度（全治）	九州電力の支線への接触により電柱上のトランスが傾斜した。その復旧工事により2戸が30分停電した。					
	事故概要	バックホー0.7m3のオペレータが、通常右旋回（支線の高い方向）とは逆のホッパー置場に近い左方向（支線の低い方向）に旋回したことにより、バックホーのブームが架空線（支線）に接触し、電柱上のトランスが傾いた。トランスの復旧の為、30分（2戸）停電した。					
	事故原因等	・当初計画では、支障物件（支線、支線柱）移設後に施工を行う計画であったが、移設が遅れ、移設前の施工を行った。 ・移設前の施工に対して、架空線への事故防止対策が行われていなかった。また、施工計画書に事故防止対策の記載がなされていなかった。 ・掘削残土上に重機足場を設けたため、支線との作業空間を通常より2，3m狭めて作業を行った。 ・合図員を配置していたが、打設作業に加わり持場を離れていた。					
	改善策等	・現場状況に即した変更施工計画書を提出させ、それに沿った施工を行わせる。 ・やむを得ず架空線の下で作業する場合は、防護カバー等を設置する。 ・合図員及びオペレータの安全教育の徹底を行う。					
	類似工事（他工事）へ活用できる対策等	・週間工程打合せ時（主任監督員）に作業内容と施工計画書の確認を徹底する。 ・管内の現場に事故概要を周知し、点検・指導を徹底する。					

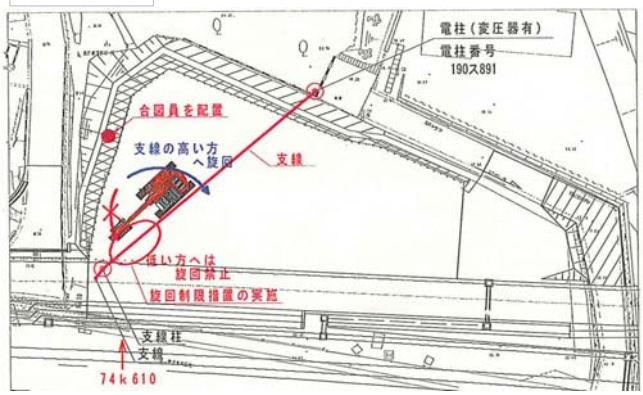
事故状況図

事故状況図

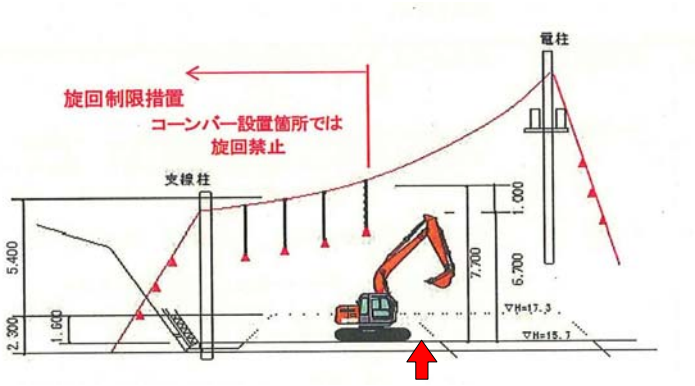


改善策

平面図



断面図



掘削残土を撤去後に施工する。